猫ひっかき病(1)

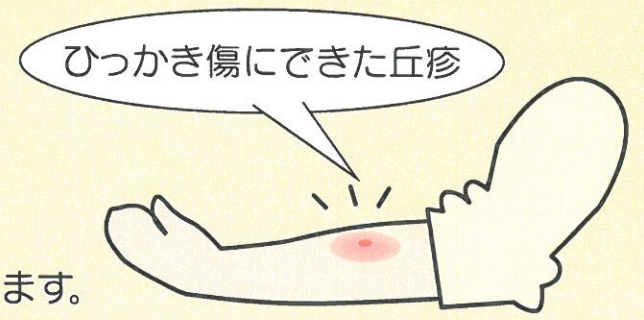
●猫ひっかき病とは

猫ひっかき病は、猫に引っかかれたり咬まれたりしたとき、傷口から侵入したバルトネラ属菌が原因となって起こる動物由来感染症です。
犬との濃厚接触による小児の感染事例もあり、身近なペットから感染する病気として注意が必要です。

●患者(人)の発生状況

患者の発生に関する統計はありませんが、成人より子供の発生が多いとされています。
また、ノミの繁殖期で感染した猫が増加する夏季と室内で猫との接触機会が増える寒い時期に多発するといわれています。

●臨床症状



人

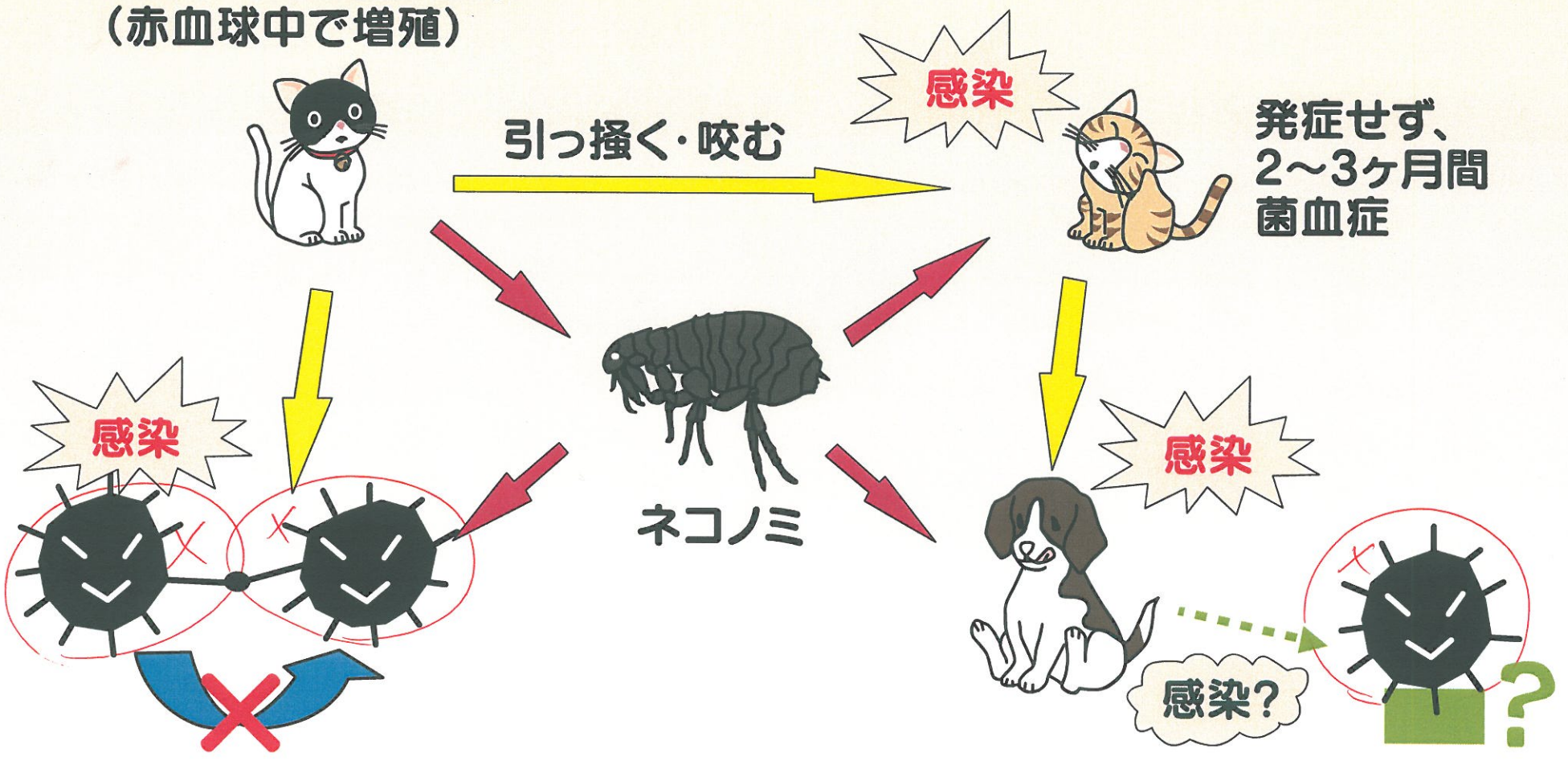
受傷後3～10日で、虫刺されに似た病変ができ、その後丘疹や水疱となります。
1～2週間たつと、リンパ節(頸、腋の下、腿のつけね)が腫れ、発熱、悪寒、倦怠、食欲不振、頭痛等の症状が現れます。大部分は2～3週間で自然治癒するとされていますが、重篤な経過となる場合もあります。

猫

ほとんど臨床症状を示さないまま、長期間(数か月から数年)の菌血症となり、菌を出し続けます。

●感染経路

バルトネラ属菌 感染
(赤血球中で増殖)



愛媛県動物愛護センター